

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5321 漢文学の世界			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	180
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	木曜3限				
教室	D203教室				
代表教員	津田 博幸				
担当教員	津田 博幸				
テーマと到達目標	古代日本人が書いた漢文を読み、基礎学力を養いつつ、漢文学の世界を楽しむことを目標とする。ゼロから漢文読解の手引きをするので、まじめに努力する人なら初心者でも大丈夫なはずである。漢文は書記言語として前近代の東アジアの共通言語であり、日本文化の中でも千年以上機能し続けて、結果として日本語の一部となった。その歴史を実感的に理解してほしい。				
概要	前期の「文学へのいざない1」に引き続き、人と異類（動物）との関係を語る漢文を読む。こちらでは、人と動物が会話をかわすという、『わんだふるぷりきゅあ!』的な問題について考えてゆく。神話学者レヴィ＝ストロースは、人間が人間と動物（や植物）との間に「のりこえられないような断絶はないのだと感ずるようになれば」、人間は「高い叡知に到達することができる」だろうと言った（『神話と意味』）。人間と動物との間にある壁の一つは言語だが、神話や物語は古くからこの壁をのりこえようとしてきた。それは、「高い叡知」への欲求だったわけだ。講義形式。なるべく楽しくやりたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	『わんだふるぷりきゅあ!』と『ドリトル先生』――動物たちとの会話。				対面授業
第2回	『日本書紀』概説、および、漢文の読み方について。				対面授業
第3回	話す雉――『日本書紀』アメワカヒコ神話(1)。				対面授業
第4回	鳥たちの葬儀奉仕――『日本書紀』アメワカヒコ神話(2)。				対面授業
第5回	話す蛟――『日本書紀』山幸彦神話。				対面授業
第6回	話す八咫鳥（やたがらす）――『日本書紀』「神武天皇」。				対面授業
第7回	歌う猿――『日本書紀』「皇極天皇」と『漢書』「五行志」。				対面授業
第8回	古代中国の神秘思想に見る動物と言語。				対面授業
第9回	対策文と四六駢儷体（しろくべんれいたい）概説。				対面授業
第10回	「鳥獣言語」策問――鳥獣が話した先例と質問の主意。				対面授業
第11回	「鳥獣言語」対策(1)――陰陽論から見る人間と鳥獣の違い。				対面授業
第12回	「鳥獣言語」対策(2)――鳥獣が話したさらなる先例。				対面授業
第13回	「鳥獣言語」対策(3)――儒教・仏教に見る言語の神秘の先例。				対面授業
第14回	「鳥獣言語」対策(4)――結論。				対面授業
第15回	話す牛――『日本霊異記』（輪廻転生と話す動物）。				対面授業
成績評価の基準	全授業時数の3分の2以上の出席と課題提出を必須とする。毎回ポータルを通して課題（その日の講義内容に対する理解の確認、発展的考察・質問などを200字以上）を提出（欠席した回の課題提出は不可）。毎回の課題の評点の総計で評価する。				
履修にあたっての留意事項	・前期の「文学へのいざない1」も人と異類（動物）との関係を論じるので合わせて履修してほしい。 ・国語の教員免許取得希望者はぜひ履修してほしい。 ・漢和辞典を持参すること（高校時代に使っていたものでよい。電子辞書も可）。 ・オンライン授業の併用は原則として行わないが、受講者に病気等のやむをえない事情がある場合はZoom中継の視聴および講義後のZoom録画の視聴を認める。希望者は講義開始の30分前までにポータルの「授業Q&A」で申し出ること。ただし、Zoomでは教室で視聴する映像資料の中継はできない。なるべく教室での出席をお勧めする。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業	T学科の低学年から順に優先				

の優先条件	
-------	--

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	プリントを配付。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に適宜指示。	参考文献(ISBN)	